

## 極小未熟児の就学前発達

(分担研究：ハイリスク児の地域ケアのあり方に関する研究)

研究協力者 前川 喜平 中江陽一郎  
川上 義 秦野 悦子

### 対 象

日赤医療センターにおいて出生した極小未熟児で発達フォロー中で主治医が正常と判定した小児を小児神経医が新生児期その他の情報を知らずに発達検査を行った。

結果(表1～6)

7名検査した。性、在胎週数、出生体重、入院日数、発達検査時年齢、主治医の判定、検査時の身体計測値(身長、体重、頭囲)、神経学的診察と心理検査などの結果を表1～6に示す。

#### (1) 神経学的診察

頭囲が平均より小さいものが多い(7例中5例)。

1例(症例⑦)は左下肢痙直性麻痺で軽度脳性麻痺、その他の6例も全例soft neurological signがいくつか認められた。運動の拙劣、理解力が悪い、lateral dominantの異常などが主な所見である。

#### (2) 心理検査

7例中5例がIQ100以下で、70以下のものを1例認めた。この1例(症例⑦)は注意の持続が悪く、検査が充分に行われずそのため評価が低く出たと考えられる。

動作性IQ(PIQ)と言語性IQ(VIQ)共に100以上のものは1例しか存在せず、動作性IQと言語性IQで、VIQがPIQより低いものが5例認められた。

#### (3) 言語発達

言語不明瞭で、言語発達に問題があるものがみられた。

#### (4) 母親の養育態度

診察または心理検査中、子供がしきりに母親の顔を見て親よりの指示を要求するものや母親がいろいろと指示をするものが多いことが目立った。このことは過保護の傾向にあることを示すものである。

### 結 語

極小未熟児で主治医が正常と判定した就学前の7例をプロトコールに従って検査した。その結果、7例中6例は正常範囲であるが、何れも将来学習障害に結び付くであろう微細な神経学的異常がみられた。これらの異常のあるものは、母親の養育態度により学習の十分な機会が小児に与えられていないことと過保護による自信のなさも関係していると思われる。

表1

氏名。性	在胎周数	出生体重	年齢	退院	主治医 判定	身体計測 体重	身長
N. M 女 症例 1	25週3	744	6歳0	115日 14日 修正3 週	正常	16.2 kg	109.5 cm
N. Y 女 症例 2	29週2	1210 g	6歳7月	140日 4日 修正2 週	正常	17.9	114.6

表2

頭囲	神経学的診察	W P P S I
49 cm	<p>1. 頻発 2. 頻発 3. 頻発 4. 頻発 5. 頻発</p> <p>い運界手トみ。 な外準下害入をる け回。障子顔せ 猫内ち音視のさ が回立ッ聴注頼に 角腕足キ度方、り 三前片入軽側に通</p> <p>動：肘が5 cm以上動く ：境なんでも親が口をだし、</p>	<p>V I Q : 86 P I Q : 90 I Q : 86</p>
51.0	<p>1. 幼 2. 幼 3. 幼 4. 幼 5. 幼 6. 幼 7. 幼 8. 幼 9. 幼</p> <p>手片繼理解1肺左el講之稚 a(足ぎと解ら2炎副pa音子園 t右立足つ力な指で耳it障ンで )ち：まがい腸3、c害二遊 d、：きさ悪。閉回Dad(のび o目境ちきい鎖入unoサ立の m(界んが。手院btm行ちな i左、とちこ術ohiがこか n)片出やちのiss.えが直 異足ケなどののいなきに 常(右ケン)：ずれる</p>	<p>V I Q : 68 P I Q : 74 I Q : 65?</p>
症例 2		

表3

氏名・性	在胎周数	出生体重	年齢	退院	主治医	身体計測 体重	身長
N. T 女 症例 3	32週4	1058g	6歳5月	66日2 修正4 週	正常	24kg	118.9 cm
T. Y 男 症例 4	26週3	1012	6歳2	96日4 修正1 週	正常	18.8	114.1
S. S 女 症例 5	28週5	1032	6歳0	103日3 修正4 週	正常	17.3	115.2

表4

頭 囲	神経学的診察	W P P S I
50cm	<p>2. lat. domin の異常</p> <p>左左保 の難で の難で の難で の難で</p>	<p>V I Q : 102</p> <p>P I Q : 94</p>
症 例 3	<p>2. lat. domin の異常</p> <p>左左保 の難で の難で の難で の難で</p>	<p>I Q : 97</p>
51.8	<p>3. 現して、自転車に乗れる。</p> <p>3. 現して、自転車に乗れる。</p>	<p>V I Q : 102</p> <p>P I Q : 98</p>
症 例 4	<p>3. 現して、自転車に乗れる。</p> <p>3. 現して、自転車に乗れる。</p>	<p>I Q : 100</p>
49.8	<p>追視障害 (スムーズに追えない)</p> <p>追視障害 (スムーズに追えない)</p>	<p>V I P : 83</p> <p>P I Q : 103</p>
症 例 5	<p>追視障害 (スムーズに追えない)</p> <p>追視障害 (スムーズに追えない)</p>	<p>I Q : 91</p>

表5

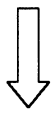
氏名・性	在胎周数	出生体重	年齢	退院	主治医 判定	体重 kg	計測 身長 cm
W. Y 男 症例 6	28週0	1165	6歳5月	7月3日 修正3日 修週	正常	18.3	112.0
M. S 女 症例 7	30週2	1148	6歳8月	8月4日 修正5日 修週	正常	19.7	114.4

表6

頭四	神.經.学.的.診.察	W P P S I
50. 4 c m  症 例 6	<p>1 2 3 4 5 6 7</p> <p>：：：：：：：            染落マ興肺3前 m            着ちイ味炎角腕 i            不着べののでが回 r            明き一移入う内 r o r            喉が入り院ま回 r            ：：：：：：：            驚い子わ回描運            罵い子わ回描運            扁桃腺大3度肥大、アデノイド</p> <p>が激しい。            けな：境界 軽度            動 m o v e .</p>	<p>V I Q : 8 4            P I Q : 9 2            I Q : 8 6</p>
50. 5  症 例 7	<p>左片左そ母父と運            尖足靴のが親て動            る立のほ入とも会            足ちつか院米利で            ( : まは中院口 I            ア境先言で。等            キ界きう家            レがこ事            ス腿拘縮)、左足痙直 +            減とな手伝っている。</p>	<p>V I Q : 1 0 5            P I Q : 1 1 3            I Q : 1 1 1</p>



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



結語

極小未熟児で主治医が正常と判定した就学前の7例をプロトコールに従って検査した。その結果、7例中6例は正常範囲であるが、何れも将来学習障害に結び付くであろう微細な神経学的異常がみられた。これらの異常のあるものは、母親の養育態度により学習の十分な機会が小児に与えられていないことと過保護による自信のなさも関係していると思われる。